

科目名	英会話 I						
科目名(英)	English Conversation I						
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	脇野真帆
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	保育士として8年 英語講師として21年
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	わが国のグローバル化が進む中、日常英会話は社会人としての常識になりつつある。医療福祉の現場にも外国人が入るようになり、ベーシックな英会話、医療用語などの知識を習得しておくことは必須である。中学までの英語を再度復習し、基礎英会話力をしっかり身につける。						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				中学英語までの文法を再度復習し、主語述語目的語の文を作ることができる。	
	○	○				簡単な英会話ができるようになる。	
	○	○				子どもがかかりやすい病気、怪我、状況を英語で説明できるようになる。	
	○		○			英語のあそび歌、絵本の翻訳にも挑戦し、保育実習でも活用できるようにする。	
				○		英語の手話で自己紹介ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	Happy English, Let's Go, Oxford Picture Dictionary, English Time						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	Unit1 挨拶 自己紹介 人に何かを頼む表現					テキストを事前に読んでおくこと
	2	Unit2 道案内 位置を伝える表現					テキストを事前に読んでおくこと
	3	Unit3 登園時の会話					テキストを事前に読んでおくこと
	4	Unit4 好きなもの嫌いなものを聞く表現					テキストを事前に読んでおくこと
	5	Unit5-6 園内での会話 桃太郎 かぐや姫を英語で読む					昔話の翻訳をします。辞書を持参してください。
	6	Unit7-8 保護者からの相談 アレルギーの有無を伝える表現					テキストを事前に読んでおくこと
	7	Unit9-10 園行事予定についての会話					テキストを事前に読んでおくこと
	8	研究発表					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)レポートの提出 (2)研究発表 (3)小テスト 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表				◎		80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート				◎		10%
履修上の注意							

科目名	英会話 I SC											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		脇野真帆			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		保育士として8年 英語講師として21年			
対象学科・学年	社会福祉科2年											
授業概要	英会話 I の授業を通して学んだことを活かしつつ、日本独自の「おもてなしの精神」を備えてのレクリエーションを実施することで、実際に外国人の方々とコミュニケーションを図り楽しんでいただくことができることを目指す。											
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
				○		グループやクラス内において積極的な協力を実践することができる。						
		○				レクリエーションの要素を含めながらの運営を意識することできる学びを得ることができる。						
	○					レクリエーションを行う中で「伝える」ということを意識して、しっかりとコミュニケーションを図ることができる。						
テキスト・教材 参考図書	なし											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)										
	2	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)										
	3	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)										
	4	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)					準備に対して入念なりハーサルを行う。					
	5	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)										
	6	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)										
	7	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)										
	8	2日目(まとめ・振り返り)										
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	グループ内での協働・参加状況						◎				50%	
	レポート作成				○						50%	
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。											

科目名	児童の心理学										
科目名(英)	Children's Psychology										
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	眞崎 明日香				
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	乳児院にて保育士として勤務				
対象学科・学年	社会福祉科2年生										
授業概要	乳幼児の発達を保育の観点から学び、身体、運動、認知など各領域の発達段階に応じた表現、関わり、声掛けや対応を習得する。またライフストーリーワーク等の現場で実践されている技法を学び、人間関係、問題行動へどう向き合うかを考える。										
授業形式	講義 ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					乳幼児における発達の道筋を知り、保育士としての役割や関わりについて説明できる。					
		○				事例に応じた対応や課題に取り組み、それぞれの意見を述べることができる。					
		○				愛着が乳幼児期にどのような影響をもたらすのか、愛着形成について説明できる。					
				○		自ら表現、意見を出すことに積極的に取り組み、創意工夫できる。					
	○					発達段階に応じた声掛けや、問題行動への対応について深く考えることができる。					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	授業ガイダンス 保育における発達の理解					パソコンの準備をすること				
	2	乳幼児期の発達 0～2歳					パソコンの準備をすること				
	3	乳幼児期の発達 3～5歳					パソコンの準備をすること				
	4	人との相互的関わり					パソコンの準備をすること				
	5	生活や遊びを通した学びの過程					パソコンの準備をすること				
	6	事例検討(問題行動、ケンカ)					パソコンの準備をすること				
	7	発達援助について					パソコンの準備をすること				
	8	ライフストーリーワーク 発表 授業のまとめ					発表の準備を済ませて持参すること。				
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法	課題レポートの提出 授業内での発表内容を 下記の観点・割合で評価する。成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	課題レポート提出		◎		○					60%	
	通常授業への取り組み						◎			20%	
	発表内容				◎		○			20%	
履修上の注意											

科目名	環境(指導法)SC							
科目名(英)								
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	藤崎 博喜	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	保育園 園長	
対象学科・学年	社会福祉科 2年生							
授業概要	保育園「ひなた村自然塾」での農作業体験を通して、我々が何気なく過ごしている日常について考える機会を設けるとともに、「食」と「環境」についてを深く学び、私達における将来の行動指針や自然や食のあるべき姿についても深く考え、今後の生き方や育児についての学びを得る。							
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
				○		自然に触れながら、自ら意欲的に参加することができる。		
	○					講義の課題に対して、自らの考えを積極的に発して議論することができる。		
		○				農作業体験と講義の内容を通して「食」と「環境」について改めて深く考えることができる。		
		○				自らの置かれている「環境」について受けている影響についての学びを深めることができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	1日目	田植え体験・畑仕事体験					
	2	1日目	田植え体験・畑仕事体験					
	3	1日目	田植え体験・畑仕事体験					
	4	1日目	講義					実体験と講義の内容を踏まえて、別途にレポートを作成
	5	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験					
	6	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験					
	7	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験					
	8	2日目	講義					実体験と講義の内容を踏まえて、別途にレポートを作成
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	(1)授業の中で清書した履歴書を試験のかわりとして評価する。 (2)出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	行事への参加態度				◎		25%	
	講義の参加状況				○		25%	
	レポートの内容	◎	○				25%	
	ディスカッションの状況		○				25%	
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。							

科目名	音楽表現技術SC						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	森田ゆかり・亀谷葉
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	専門学校にて非常勤講師として勤務
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	1・ピアノに親しみ、2年次までの2年間で表現力、テクニックを磨き、修了コンサートの成功を目指して努力する。 2・音楽の基本的な理解と、音楽活動での様々な楽器の習得を目指す。 3・歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力・チームワーク・理解力・向上心)を磨く。						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。	
	○					楽譜に書かれている音を自分のものにし、表現することができる。	
		○				歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。	
					○	他者からの助言がなくても、自分で解説し練習することができる。	
			○			自主練によってテクニックを磨き、技術を習得することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各自が用意した修了コンサートの楽譜						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)					各自譜読みを進めていく。
	2	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)					各自譜読みを進めていく。
	3	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)					各自譜読みを進めていく。
	4	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)					各自譜読みを進めていく。
	5	修了コンサート(リハーサル:ピアノ演奏・合唱)					演奏課題曲をしっかりと演奏する。
	6	修了コンサート(リハーサル:ピアノ演奏・合唱)					演奏課題曲をしっかりと演奏する。
	7	修了コンサート					演奏課題曲をしっかりと演奏する。
	8	修了コンサート					演奏課題曲をしっかりと演奏する。
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	修了コンサート(通し練習と本番の2回) を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	近畿大学九州短期大学スクーリング (修了コンサート)	◎		○		○	100%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	児童と健康SC						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	西門哲也
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	体操教室を開講
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	幼児の運動あそびの必要性を知るとともに、発達・能力を把握する。また、運動あそびの展開及び運動の補助、安全管理や体育指導を身につける。「幼児体育」の授業で培った内容をもとに、実際の「運動会」を想定した計画とシミュレーションを行い、その中から幼児との関わりや留意点についての学びを深める。						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					子どもたちの安全性を最優先事項とし、他学科・グループにて議論した上で計画を立案することができる。	
		○				各年齢における発達・能力を把握した上で、その状況に応じた骨子案を計画することができる。	
				○		積極的に協力することで、実際の運動会に向けての運営を実践することができる。	
			○			他グループが運営する競技に子どもに扮して模擬的に参加することで、実際の状況に沿った体験を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 アイスブレイキング、模擬運動会の計画・準備				年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。	
	2	1日目 模擬運動会の計画・準備				年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。	
	3	1日目 模擬運動会の計画・準備(リハーサル)				年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。	
	4	1日目 模擬運動会の計画・準備(リハーサル)				年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。	
	5	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)				1日目の骨子案に対しての修正を加えた内容での計画の実践を試みる。	
	6	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)				1日目の骨子案に対しての修正を加えた内容での計画の実践を試みる。	
	7	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)				1日目の骨子案に対しての修正を加えた内容での計画の実践を試みる。	
	8	2日目 模擬運動会の実践に対しての振り返り					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品・演技			○	◎		70%
	グループでの協力状況				◎		30%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	子ども家庭支援論						
科目名(英)	Family Support						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	中山 八保子	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務	
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	保育士は「児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行う」専門職として児童福祉法に位置づけられている。つまり、子育て支援に対しても専門的な知識や技術を有することを示す。現場においては、保育士がより効果的に家族を援助するために、ソーシャルワーク、カウンセリングの基本知識や技術を学び、援助することが求められている。3年次の児童福祉施設実習に向け、感じる力、深く考える力を身につけ、保育士としての役割を理解していく。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					家族援助の対象と役割について説明することができる。	
		○				家族の形態、機能、取り巻く地域社会について説明することができる。	
	○	○				虐待家族への支援について説明することができる。	
		○		○		児童福祉施設(養護系)における保育士の役割について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・橋本真紀・山縣文治 『よくわかる家庭支援論[第2版]』 ミネルヴァ書房 2019年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	児童福祉施設実習について(希望調査表配布)				児童福祉施設について理解しておく	
	2	児童心理治療施設、乳児院、児童自立支援施設について				児童福祉施設について理解しておく	
	3	科目ガイダンス、家族援助が求められている背景と意義について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	家族の形態、多様化する家族				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	家族の機能、家族を取り巻く地域社会の変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	社会の変化と家族の変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	子どもをめぐる諸問題とその背景				レポートの準備をしておく	
	8	児童虐待について				児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと	
	9	虐待家族に関わる機関・施設・サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	児童相談所について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	虐待家族への支援について①子どもへの支援 ②親への支援				レポートの準備をしておく	
	12	乳児院における家庭支援について				乳児院の復習をしておく	
	13	児童養護施設における家庭支援について				児童養護施設の復習をしておく	
	14	母子生活支援施設における家庭支援について				母子生活支援施設について予習をしておく	
	15	まとめ(科目試験に向けて)				科目試験に関する資料を準備しておく	
評価方法	(1)出席率(15分以上の居眠りは欠課とする)。(2)授業への参加状況(積極的な発言)。(3)小テストを4回実施する。(4)レポートを2冊提出する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席率				○		10%
	授業態度				○		10%
	小テスト	◎	◎				40%
	レポート	○	◎		◎		40%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、麻生での単位取得はできない。						

科目名	子どもの食と栄養											
科目名(英)	Child Nutrition											
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		大仁田あずさ			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		大学にて専任教員として勤務			
対象学科・学年	社会福祉科 2年											
授業概要	改訂保育所保育指針では、食育の推進において、(1)保育所の特性を生かした食育、(2)食育の環境整備等、さらなる食育の充実を図ることが求められている。本科目では、子どもの栄養・食生活が生涯にわたる健康と生活の基盤であることを理解し、さらに、栄養の基本的知識や発育・発達段階に応じた適切な栄養摂取と健康な食事のあり方を学ぶ。また、保育における食育の意義や現在、深刻化している食物アレルギーなどの特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応についても理解を深める。											
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用について説明できる。						
	○					乳児期、幼児期、学童期・思春期の各時期における栄養・食生活について説明できる。						
		○				保育における食育の意義とその実践について具体的に述べることができる。						
				○		食物アレルギーを正しく理解することにより、給食での安全な対応ができる。						
				○		保育者として、子どもたちに正しい食育を実践するために、自身が健康で豊かな食生活を実現することができる。						
テキスト・教材 参考図書	二見大介、高野陽 編著 『子どもの食と栄養』 北大路書房											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	子どもの心身の健康と食生活の意義-子どもの食生活の現状と課題					【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再					
	2	栄養に関する基本的知識-栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用					【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再					
	3	妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント-妊娠期・授乳期の栄養・食生活					【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再					
	4	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活-乳汁栄養、離乳の意義とその実践					【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再					
	5	幼児期の心身の発達と食生活-幼児期の食生活の特徴、間食の意義とその実践					【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再					
	6	学童期・思春期の心身の発達と食生活-学童期・思春期の食生活の特徴、学校給食の重要性					【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再					
	7	食育の基本と内容・方法-保育における食育の意義とその実践					【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再					
	8	家庭や児童福祉施設における食生活と栄養					【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再					
	9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養-食物アレルギー、障がいのある子どもへの対応					【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再					
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験		◎		○						80%	
	宿題・レポート		○		◎		◎				20%	
履修上の注意												

科目名	子どもの食と栄養SC											
科目名(英)	Schoolig of Child Nutrition											
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		大仁田あずさ			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		大学にて専任教員として勤務			
対象学科・学年	社会福祉科2年生											
授業概要	授業科目「子どもの食と栄養」で習得した知識を基に、調理実習を通して年齢や発達段階に応じた子どもの望ましい食事の摂り方について学ぶ。また、保育における食育の意義や近年、深刻化している食物アレルギー等の特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応についても理解を深める。											
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
				○		保育者として、子どもたちに正しい食育を実践するために、自身が豊かな食生活を実践することができる。						
		○				保育における食育の意義を踏まえ、その内容を実践することができる。						
					○	乳児期、幼児期、学童期・思春期の各時期における栄養・食生活の情報をもとに、その状況に沿った食事を準備・提供することができる。						
				○		食物アレルギーを正しく理解することにより、給食での安全な対応を行うことができる。						
		○				食事を準備・提供する過程で、「食」の本質について理解することができる。						
テキスト・教材 参考図書	二見大介、高野 陽 編著『子どもの食と栄養』北大路書房											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	1日目 調理実習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	2	1日目 調理実習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	1日目 調理実習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4	1日目 調理実習後の振り返りとまとめ										
	5	2日目 調理実習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	6	2日目 調理実習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	7	2日目 調理実習					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	8	2日目 調理実習後の振り返りとまとめ										
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	調理実習に臨む姿勢・態度						◎				10%	
	事後レポート		○		◎						10%	
	出席状況						◎		◎		80%	
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。											

科目名	保育実習事前事後指導 I（保育所）SC										
科目名(英)											
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		中山八保子		
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科2年生										
授業概要	保育実習指導を踏まえて、保育事前実習の経験した結果から得られた自身の課題を明確にして共有することで、今後の保育実習(単位実習)にむけての課題解決を図る指針とするとともに、日常生活における自己のあり方を再考し実践することを目指す。										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					保育事前実習で得られた経験をしっかりとまとめて理解・伝わるように表現・発表することができる。					
		○				保育現場における課題を明確にすることができる。					
				○		保育事前実習を通じて得られた、自己の課題を発見し見つめ直すことで保育者・人としてのあるべき姿について再考することができる。					
テキスト・教材 参考図書	近畿大学・「保育課程総論」										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	保育事前実習の内容の振り返り(各自でまとめる)					保育事前実習の振り返ることで、自身の課題や今後の展望についての考えを事前にまとめておく。				
	2	保育事前実習の内容の振り返り(各自でまとめる)									
	3	保育事前実習の内容の振り返り(各自でまとめる)									
	4	2日目 クラス内の発表内容の共有と保育実習(単位実習)に向けての準備					事前実習における自身の課題を明確にするとともに、単位実習や今後の日常生活における課題解決にむけての方向性を明確にする。				
	5										
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
	振り返りの発表		○				◎				
	レポート		○				◎				
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。										

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	80時間		担当者	中山八保子
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	保育士資格を取得するために保育所で行う実習。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ ①保育所における1日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める						
授業形式	講義：		演習：	実習：○	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようなようにつながるか理解することができる	
				○		実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる	
				○		自分なりの保育観や子ども観を深め確立する	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 保育所保育指針解説書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	10日間	保育所実習では、以下の観点から保育所における保育がどのようなになされているかを理解する。 1. 保育所の内容、機能について理解する （保育所の1日の流れやプログラムの理解など） 2. 保育所における子どもの理解 （年齢（月齢）ごとの子どもの発達とその特徴など） 3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する 4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること				・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をする ・各自の実習のねらい、課題を明確にする ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする	
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習園の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		◎		50%
	実習園の評価		○	○	◎		30%
	勤務状況等				◎		20%
履修上の注意	実習要件科目の単位をすべて修得していること						

科目名	医学概論						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	大坪 昭子
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	看護師、看護教員
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	人の生命力や生活力、社会力について、ライフステージをもとに健康・疾病・障がいの脅かす影響や心身機能の変化がわかる。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する	
	○	○		○		人の身体構造と心身機能について理解する	
	○	○		○		健康・疾病の捉え方について理解する	
	○	○		○		疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する	
	○	○		○		公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する	
テキスト・教材 参考図書	講師資料(プリント)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	人の生命の連続性と生命力、健康の捉え方				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	2	生命力を脅かす毒され群と衰え群				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	3	炎症や病気は回復過程、障がいはWill-being				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	4	人体の構造と系統別役割				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	5	生命維持のために機能する臓器の正常と異常				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	6	生活力維持のために機能する臓器・器官の正常と異常				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	7	社会力維持のために機能する臓器・器官の正常と異常				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	8	疾病の可逆性・不可逆性、受容の段階				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	9	出生前・出生時・周生後の障がい				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	10	子どもに起こりやすい症状と処置				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	11	成人に起こりやすい症状と処置				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	12	高齢者に起こりやすい症状と処置				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	13	疾病や障がいをもつ対象のリハビリテーション				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	14	国際生活機能分類(ICF)を事例(秋雪くん)から整理する				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
	15	国際生活機能分類(ICF)の事例(秋雪くん)と地域で生きること				講義事前プリントを配布し、予習を行う。授業の中でプリントを完成し提出する。	
評価方法	①定期試験 ②宿題・ミニレポート ③発表・授業態度など 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		○		70%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		○		30%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	社会学と社会システム									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	川原ゆり				
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員 養護学校教員				
対象学科・学年	社会福祉科2年生									
授業概要	社会福祉の学習にとって、社会の成り立ちやその仕組み、歴史的変遷の学習は不可欠である。この科目は、社会の仕組みを理解することで社会福祉との関連を理解すると共に、社会を構成する、家族や地域に目を向け、さらには国際関係の中での日本が今後どのようにあるべきなのかを考える機会とする。									
授業形式	講義：	○	演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○	その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○		△		社会で起きている事象に関心を持ち、自身の考えを持つことができる。				
		○		△		社会の問題を分析することができる(何が問題なのか、原因は何か等)。				
		○		△		問題の解決策は何かを考えることができる。				
		○		△		法律や制度、歴史等を理解し、自分の知識を広げることができ、考察力が向上する。				
		○		△		自分の考えを分かりやすく発表することができる。				
テキスト・教材 参考図書	新聞記事とそれに関連する文献、ネットの情報									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	プロローグ～何を学ぶのか？授業の目的と方法の理解 ～①社会学で何を学ぶのか								
	2	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～②国際情勢と日本					授業を受けての感想・確認レポート等			
	3	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～③国際情勢とb日本 その2					授業を受けての感想・確認レポート等			
	4	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～③家族と家庭の変化と今後の在り方 その2					授業を受けての感想・確認レポート等			
	5	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～④家族と家庭の変化と今後の在り方					授業を受けての感想・確認レポート等			
	6	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～④家族と家庭の変化と今後の在り方 その2					授業を受けての感想・確認レポート等			
	7	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～⑤人権問題と福祉1 障害者問題					授業を受けての感想・確認レポート等			
	8	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～⑤人権問題と福祉1 障害者問題					授業を受けての感想・確認レポート等			
	9	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～⑥人権問題と福祉2 女性差別問題					授業を受けての感想・確認レポート等			
	10	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～⑦人権問題と福祉3 LGBT問題					授業を受けての感想・確認レポート等			
	11	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～⑧児童虐待問題と福祉1					授業を受けての感想・確認レポート等			
	12	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～⑨児童の歴史と児童福祉1					授業を受けての感想・確認レポート等			
	13	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える ～⑩児童の歴史と児童福祉2					授業を受けての感想・確認レポート等			
	14	社会的な問題を深堀りし、福祉とは何かについて考える					授業を受けての感想・確認レポート等			
	15	エピローグ～改めて福祉とは何か？								
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)課題の提出や意見の発表・グループワーク等での意欲・態度と内容の理解度。 (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	○				60%			
	課題の提出	◎	◎				20%			
	意見発表・グループワーク	○	◎		◎		10%			
	出席状況				◎		10%			
履修上の注意	内容はその時々起きたことで変更する可能性大。 出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門) I						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	山下琢也	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	病院・高齢者施設にてソーシャルワーカー	
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	相談援助や福祉業務を実践する上で基本となり、踏まえなければならない考え方や理論についてを学ぶ。また、ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					「福祉」の基礎となる考え方・理論について理解することができる。	
		○				基礎となる考え方・理論を踏まえて、相談援助活動の礎を築くことができる。	
				○		自身の身近な身の周りの課題として捉え、真摯に向き合うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	ソーシャルワーカーの役割について				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	3	相談援助とは(相談援助の枠組み・構成要素・展開過程)①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	4	相談援助とは(相談援助の枠組み・構成要素・展開過程)②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	5	相談援助とは(相談援助の枠組み・構成要素・展開過程)③				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	6	相談援助とは(相談援助の枠組み・構成要素・展開過程)④				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	7	ソーシャルワークの目的と価値①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	8	ソーシャルワークの目的と価値②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	9	ソーシャルワークの方法①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	10	ソーシャルワークの方法②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	11	ソーシャルワークにおける面接・面談について				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	12	ソーシャルワークを取り巻く現在の課題について①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	13	ソーシャルワークを取り巻く現在の課題について②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	14	ソーシャルワークを取り巻く現在の課題について③				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	15	まとめ				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業参加度	◎	○				80%
	発表				◎		20%
履修上の注意	毎回の授業でパソコン(パワーポイント)を使用します。可能であれば様々な動画を通じて考える機会を設けたいと思いますので、動画放映の準備をお願いします。						

科目名	貧困に対する支援						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	宮井浩志
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院にてMSWとして勤務
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	低所得者への支援は高齢、児童等分野を問わず必要不可欠な状態であり、日本の貧困問題は年々深刻さを増している。この科目では、貧困・低所得の概要や支援等を生活保護制度を含めて学んでいく						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				生活保護制度の概要について説明することができる	
		○				貧困の定義、要因を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 低所得者に対する支援と生活保護制度						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	貧困の理解					
	2	公的扶助の概念					
	3	公的扶助制度の歴史(諸外国)					
	4	公的扶助制度の歴史(日本)					
	5	低所得者に対する支援制度					
	6	生活保護制度の目的、基本原理、財源					
	7	生活保護の種類と内容Ⅰ					
	8	生活保護の種類と内容Ⅱ					
	9	生活保護制度における専門職の役割、他職種との連携					
	10	生活保護の最近の動向と課題					
	11	ホームレス対策					
	12	施設見学					
	13	施設見学					
	14	見学振り返り					
	15	全体のまとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	発言・質問・学習姿勢				◎		30%
履修上の注意							

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	専門学校に常勤職員として勤務	
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	相談援助を学ぶに際して、技術的な内容を駆使することも求められる部分ではある。しかし、当事者の心理・状況を理解することにより、今後の相談援助実習につなげる「人間として」の土台を育むとともに、寄り添った実践を行うことができるようにする。						
授業形式	講義:		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自身が体験し感じたことを相手に伝えるように発表することができる。	
					○	ソーシャルワークを実践する上で不可欠な、「自身の考えや思いをわかりやすく相手に伝える」ことを実践することができる。	
		○				高齢者・身体障害者の利用者様の現状と福祉施設の現場の状況を理解するとともに、当事者の意識を実感することができる。	
				○		自身の身近な身の周りの課題として捉え、当事者の置かれている状況と真摯に向き合うことができる。	
					○	ソーシャルワーク実習に向けての経験を得ることで、自身の進むべき方向性を明確にすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ソーシャルワークにおける援助関係の形成(ソーシャルワーカーとクライアントの関係性)①					
	2	ソーシャルワークにおける援助関係の形成(ソーシャルワーカーとクライアントの関係性)②					
	3	援助関係の形成方法①(自己覚知と他者理解)					
	4	援助関係の形成方法②(コミュニケーションとラポールの形成))					
	5	援助関係の形成方法②(コミュニケーションとラポールの形成))					
	6	面接技術①(面接の意義・目的・方法・留意点)					
	7	面接技術②(面接の意義・目的・方法・留意点)					
	8	面接技術③(面接の場面と構造)					
	9	面接技術④(面接の場面と構造)					
	10	面接技術⑤(面接の技法)					
	11	面接技術⑥(面接の技法)					
	12	アウトリーチ①(ニーズの掘り起こし)					
	13	アウトリーチ②(ニーズの掘り起こし)					
	14	アウトリーチ③(ニーズの掘り起こし)					
	15	アウトリーチ④(ニーズの掘り起こし)					
評価方法	(1)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。(2)授業の内容にそった提出課題とレポートを課すこととし、その内容と提出状況を評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・授業参加度				○		40%
	提出課題	○					20%
	レポート	○	○				20%
	パワーポイント資料	○					20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価を受ける資格を与えない。						

科目名	音楽表現Ⅱ-②						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	森田ゆかり・村上京子・西頭輝子・亀谷葉・松竹玲奈		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	学校にて非常勤講師として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科・2年						
授業概要	1・ピアノに親しみ、2年次までの2年間で表現力、テクニックを磨き、修了コンサートの成功を目指して努力する。 2・音楽の基本的な理解と、音楽活動での様々な楽器の習得を目指します。 3・歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力・チームワーク・理解力・向上心)を磨きます。						
授業形式	講義:	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。	
	○					楽譜に書かれている音を自分のものにし、表現することができる。	
		○				歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。	
					○	他者からの助言がなくても、自分で解説し練習することができる。	
			○			自主練によってテクニックを磨き、技術を習得することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・各自用意した修了コンサートの楽譜 ・合唱曲の楽譜						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	各自修了コンサート曲				各自譜読みを進めていく。	
	2	各自修了コンサート曲				各自譜読みを進めていく。	
	3	各自修了コンサート曲				各自譜読みを進めていく。	
	4	各自修了コンサート曲				各自譜読みを進めていく。	
	5	各自修了コンサート曲				各自譜読みを進めていく。	
	6	各自修了コンサート曲				少しずつ区切って練習する。	
	7	各自修了コンサート曲				少しずつ区切って練習する。	
	8	各自修了コンサート曲				少しずつ区切って練習する。	
	9	各自修了コンサート曲				曲想も兼ねて練習し始める。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。	
	10	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				曲想も兼ねて練習する。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。	
	11	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				曲想も兼ねて練習する。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。	
	12	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				全体を通して弾けるよう進めていく。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。	
	13	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				全体を通して弾けるよう進めていく。	
	14	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				全体を通して弾けるよう進めていく。	
	15	ピアノ実技小テスト				テストで出来なかった箇所の復習。 曲全体をどう弾くかの再確認。	
	16	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				曲全体が仕上がるよう進めていく。	
	17	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				曲全体が仕上がるよう進めていく。	
	18	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				曲全体が仕上がるよう進めていく。	
	19	歌唱試験(合唱曲の一部) 試験終了後各自修了コンサート曲 ・ 合唱				曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱2曲の歌詞を覚える。	
	20	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱2曲の歌詞を覚える。	
	21	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱2曲の歌詞を覚える。	
	22	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱の音程の確認。表情豊かに歌えるよう練習する。	
	23	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱の音程の確認。表情豊かに歌えるよう練習する。	
	24	各自修了コンサート曲 ・ 合唱				曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱の音程の確認。表情豊かに歌えるよう練習する。	
評価方法	(1)ピアノ実技小テストを1回実施する。(2)定期実技試験(ピアノ実技試験(修了コンサート)と歌唱試験) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		ピアノ表現	歌唱表現	演奏技術	音楽的理解度	自主実行力	評価割合
	定期実技試験	◎	◎	○	○		80%
	小テスト			◎	○		10%
	内申点					◎	10%
履修上の注意	出席が17回に満たない場合は、定期試験、及び発表の受験資格を与えない。						

科目名	カウンセリング概論										
科目名(英)											
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		矢野隆子		
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		カウンセラー歴30年		
対象学科・学年	社会福祉科2年										
授業概要	対人援助職者の役割は大きくなってきており、社会福祉士にとって「カウンセリング」の知識、技法は資質として欠かすことの出来ないものとなってきている。信頼できる援助者としてカウンセリングの知識技法を修得するとともにカウンセリングマインドを身につけて、支援を必要とする人の立場に立って行動ができるようになることを目指す。										
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					相談者が抱える問題の相談に対応できるカウンセリングの主な理論と方法を説明できる					
		○				カウンセリングの現場における相談者の問題に対して対応策を設定してそれを説明できる					
		○				援助者として身につけるカウンセリングマインドの重要性を説明できる					
		○				カウンセリングスキルを身につけ、相談された際にどのように対応したらよいか説明できる					
				○		他者からの助言がなくても相談者のもつ心理的、社会的側面へ配慮することができる					
テキスト・教材 参考図書	カウンセリングの原理 誠信書房 國分康孝 ・ 医療／福祉／保育のカウンセリング滋慶科学研究所 ・ 入門カウンセリングワークブック 日精研心理臨床センター編 福山清蔵										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	科目ガイダンス 福祉カウンセリングとは 構成的グループエンカウンター									
	2	福祉カウンセリングの基礎基本									
	3	利用者・家族の心をつかむ聴き方・話し方									
	4	カウンセリングの主な理論									
	5	福祉カウンセリングの援助場面									
	6	ビデオから学ぶ「心はファンタジー」									
	7	在宅ケアにおける利用者家族へのカウンセリング									
	8	事例研究									
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する (2) 授業への参加態度(グループワーク・ふり返りシート提出) 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C (60点以上)・D(59点以下)とする										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
	定期試験	○								90%	
	グループワーク			◎				○		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない										

科目名	保育実習指導Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	中山八保子・川原ゆり・若狭恵美	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	保育所、児童施設、児童発達支援センターにおいて勤務	
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	保育園実習に向け日誌を書く際の視点の置き方や子どもの姿や発達を理解したうえでの指導案の作成方法を知る。また、実習で実施される設定保育に向け保育のシミュレーション等の準備を計画的に進めていく。						
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				子どもの姿、保育士の仕事を捉えるための視点を習得する	
		○				自身の考察を踏まえ日誌に記録することが出来るようになる	
		○		○		子どもの発達を考慮した保育指導案の作成が出来るようになる	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	事前実習の振り返り					
	2	様々な保育形態について					
	3	実習における観察、記録及び日誌の記入について					
	4	日誌の書き方、ポイントについて					
	5	事前実習直前指導(目標の設定)					
	6	事前実習振り返り					
	7	日誌の書き方、考察について					
	8	安全管理と健康について					
	9	食事の援助について					
	10	指導案とは、設定保育とは					
	11	指導案の書き方、ポイントについて					
	12	設定保育準備				必要な材料を事前に準備しておくこと	
	13	設定保育準備				必要な材料を事前に準備しておくこと	
	14	設定保育準備				必要な材料を事前に準備しておくこと	
	15	実習初日持参書類の確認等、直前指導					
評価方法	①授業態度 ②発表 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		40%
	発表		◎	○	◎		30%
	取り組み	○	◎		◎		30%
履修上の注意	欠席の場合授業で配布された書類は各自で取りに来ること						

科目名	レクリエーションⅡ											
科目名(英)	recreationⅡ											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		添田譲二			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		レクリエーション協会 元理事			
対象学科・学年	社会福祉科 2年											
授業概要	現代社会の中で、余暇やレクリエーションのもつ意味も、単なる気晴らしではなく充実した人生づくりの基盤の一つへと変化してきている。レクリエーションは、福祉社会の中での役割として生活の自立を促し人生の充実を図ると同時に協調性や思いやりなど人間形成にも影響力をもっていると考えている。このような中でレクリエーションがもつプラスの価値をどのような支援体制で展開すればよいかを解説する。そこで、遊びを体験しながら遊びの必要性や支援方法を理解することを目標に授業を展開していく。											
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					レクリエーションの必要性を理解して説明できるようになる						
		○		○		レクリエーションの多くの素材を覚えて支援することができる						
		○		○		コミュニケーションの手段の一つとしてレクリエーションの素材を使い分けることができる						
テキスト・教材 参考図書	楽しい遊びの商店街 プリント資料【配付資料】											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	レクリエーション支援について(理論)										
	2	レクリエーションの素材の体験(ゲーム)										
	3	レクリエーションの素材のアレンジ方法(ゲーム遊び)										
	4	信頼関係づくり・ホスピタリティ(理論)										
	5	レクリエーションの素材体験 (創作活動)										
	6	グループワーク・トレーニング① (素材別遊び創作)										
	7	グループワーク・トレーニング② (素材別遊び創作)										
	8	グループワーク・トレーニング③ (素材別遊び創作)										
	9	楽しむための目標設定について(理論)										
	10	コミュニケーションについて体験活動(説得・納得)										
	11	レクリエーションの素材の体験 (折り紙の世界)										
	12	レクリエーションの素材の体験 (伝承あそび①)										
	13	レクリエーションの素材の体験 (伝承あそび②)										
	14	レクリエーションの素材体験 (思い出づくりのレクリエーション)										
	15	レクリエーションⅡのまとめ(理論)										
評価方法	授業中の課題に対して個人として取り組む。 グループを単位として、レクリエーション支援の企画をする。 授業の中で学んだレクリエーション情報をアレンジして、演習を通して提供する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	実技演習	○		○				◎				50%
	授業中の課題(個人)			◎				○				30%
	授業中の課題(グループ)	○		◎				○				20%
履修上の注意	心にゆとりをもち、さわやかな笑顔で受講すること。 授業内容を楽しむ気持ちをもって受講すること。 目を輝かせ動作はハツラツとすること。											

科目名	GCB II						
科目名(英)	Giobai Citizen Basic						
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	若狭 恵美
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	知的障害児・者施設にて保育士・支援員として勤務
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	(1)充実した人生を送る人たちの考え方にたくさん触れる(2)力のあるメッセージにたくさん触れる。(3)歴史世界の動き、日本の課題、若者の意識などデータや情報と向き合う。(4)先輩やきらすめーとたちの考え・意識に触れ、自分自身を振り返る。						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					考えることの大切さを知る。	
	○	○				自分の言葉で伝える大切さを知る。	
		○		○		目標の大切さ、志の大切さを知る。	
				○		行動する大切さに気づく。	
テキスト・教材 参考図書	GCB II 学生用テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志				振り返りレポート作成	
	2	なぜ志を立てることが大切なのか				振り返りレポート作成	
	3	自己を知る				振り返りレポート作成	
	4	伝える力を学ぶ(1)				振り返りレポート作成	
	5	伝える力を学ぶ(2)				振り返りレポート作成	
	6	与えられた一度の人生に感謝し、心高く生きる				振り返りレポート作成	
	7	自己の大切さと責任を自覚する				振り返りレポート作成	
	8	GCB IIを受講して、感じたこと、気づいたこと、学んだこと				振り返りレポート作成	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)宿題でレポートを作成し提出する(8回) (2)グループワークに参加し自分の考えを発現する(グループワーク時) (3)3分の2以上のの出席をすること。授業態度が著しく悪い(居眠りや私語)場合は出席とみなさない場合もある。 成績評価はR評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○		◎		30%
	発表・作品	○	○		◎		20%
	出席状況				◎		20%
履修上の注意	レポートの提出期限を守ること 3分の2以上のの出席をすること。授業態度が著しく悪い(居眠りや私語)場合は出席とみなさない場合もある。成績評価はR評価とする。						

科目名	就職実務Ⅰ									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		若狭恵美	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		障害児・障害者施設にて 保育士・支援員として勤務	
対象学科・学年	社会福祉科2年生									
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。									
授業形式	講義:		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持する事ができる				
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる				
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる				
	○					好感のもてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる				
				○		自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる				
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	「就職」を考える					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと			
	2	就職環境を知ろう					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと			
	3	自己分析とキャリアプランニング					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと			
	4	仕事のことを研究しよう					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと			
	5	自己表現					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと			
	6	企業・施設アプローチ					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと			
	7	就職研修①					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと			
	8	就職研修②					就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと			
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	(1)毎回の授業にて、レポートを作成し提出する (2)グループワークに参加し自分の考えを発言する(グループワーク時) (3)3分の2以上のの出席をすること。授業態度が著しく悪い(居眠りや私語)場合は出席とみなさない場合もある。成績評価はR評価とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	授業態度					◎		50%		
	意欲・努力					◎		20%		
	提出物状況					◎		30%		
履修上の注意	出席が2/3未満の場合は評価対象外となる。									

科目名	交流ゼミⅡ									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		川原ゆり・山下琢也・若狭恵美	
実施年度	2022 年度		実施時期		後期		担当者実務経験		専門学校常勤講師として勤務	
対象学科・学年	社会福祉科2年生									
授業概要	社会福祉科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。									
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。				
					○	物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。				
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。				
					○	グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。				
					○	人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。				
テキスト・教材 参考図書	なし									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介								
	2	グループ内でのレクリエーション								
	3	グループ内でのレクリエーション								
	4	グループ内でのレクリエーション								
	5	グループ内でのレクリエーション								
	6	グループ内でのレクリエーション								
	7	社会福祉科「交流会」に向けての準備								
	8	社会福祉科「交流会」に向けての準備								
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	姿勢・態度					◎		100%		
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。									